



第174回智頭町畜産共進会

牛の絵画コンクール表彰式の様子



最優秀賞の「やすはく1」号

畜産共進会開催しました

5月24日(木)町民グラウンド

本町では、和牛の改良に力を入れる生産者の技術等の向上を図るため、鳥取県内で唯一、町単位で畜産共進会を開催しています。

第174回となる今回の畜産共進会には、6戸の生産者が14頭を出品し、最優秀賞には、佐々木金作さんが出品した「やすはく1」号、優秀賞には中澤閑治さんが出品した「えりきよ2」号が輝きました。

本町は、古くから畜産業が盛んで、昨年9月に宮城県で開催された「第11全国和牛能力共進会」において智頭町の牛が肉質の部全国1位に選ばれたところです。

また、次代を担う子ども達や町民の皆さんに、智頭牛に対する興味・関心を高めてもらうことや、地域の和牛生産を広くPRすることを目的に、保育園児・小学生を招いた審査見学や、園児の踊りの披露、智頭小学校2年生の牛の絵画コンクールを行い、会場を盛り上げました。



田植えをされる菊本さん(中央)



小学生にトチについて説明する山本福壽先生(左)と岡田邦雄(右)さん

トチの森づくり観察会

5月24日・5月25日

智頭小学校の授業でトチの森づくり観察会を実施しました。

24日は6年生が岡田邦雄さんの家の庭でトチの木の話や里山の話聞いた後、小学校で育てているトチの苗に施肥を行いました。25日は、5年生が芦津で山本福壽先生にトチについて学び、生徒からは「将来、今育てているトチに花が咲き、実がなるのが見たい」という声がありました。

深まる繋がりを感じて

5月26日(土)坂原

コントリビューションの会による田植えが行われました。秋に収穫されるお米はケニアの孤児院「マトマイニ」に送られます。

今年もマトマイニで活動されている菊本照子さんが田植えに参加されました。田植え後は坂原公民館で餅つきがあり、食事会では菊本さんがマトマイニの現状などを説明され、ケニアとの繋がりが深まる一日となりました。



智頭小学校での贈呈式



五月田集落と鳥取銀行の皆さん

とっとり共生の里事業

5月27日(日)

五月田集落と鳥取銀行で、今年度第一回目の共生の里事業が行われました。この事業は企業と中山間地域の集落が協同し、5年間にわたり農地等の地域資源を保全する活動を通じ、農村・農業の活性化につなげる取り組みです。

今回は、参加者約50人が畑を耕し、さつまいもやブルーベリーの苗植を行ったあと、集落で採れたよもぎで餅つきを行いました。

人権の花贈呈式

6月5日(火)智頭小学校

毎年6月1日は人権擁護委員の日です。人権擁護委員とは、法務大臣が委嘱した民間の人たちで、人権相談、人権啓発活動、そして人権侵害による被害者の救済に取り組んでいます。

智頭町では人権擁護委員の啓発活動の一環として智頭小学校に人権の花の贈呈を行いました。

当日は、人KENあゆみちゃん、ふらつちヨーくんにも来て貰い大盛況でした。



木の宿場定例会の様子



木流し工の様子

防災の意識を大切に

6月10日(日)R373やまと

洪水などの水害が多い時期に備え、各地区の水防団員が集まり、水防訓練が行われました。

水害が起きた際に速やかな対応が出来るよう、土のう作りや木流し工の訓練を行いました。山郷地区対象の避難訓練も行われ、皆さんが参加しました。いつ起きるか分からない災害に対して柔軟に対応できるように、日ごろから防災の意識を持ちましょう。

木の宿場定例会のお知らせ

毎月第2木曜日

「軽トラとチェーンソーで晩酌を！」を合言葉に、放置材を温水プールの燃料として活用し、これを原資とした地域通貨の流通により地域の活性化を目指しています。が、近年出荷者の減少等により材の搬出量が伸び悩んでいます。こうした問題に対して、町民の皆さんの意見を取り入れ、改善することを目標に活動しています。

誘い合わせの上ご参加いただき、貴重な意見をお聴かせください。